

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1】

授業作り	重 点	探究的な学びの定着やタブレット端末の活用による個別最適な学びと協働的な学びの実現。
環境作り		視覚に訴える教材・教具を工夫し、全ての児童が安心して学習に取り組める環境を整える。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・話す人の方を見て、話を聞く習慣を身に付ける必要がある。 ・尋ねたり応答したりするなどして、話題に沿って話し合うことができるように、少人数で話し合う活動や発表の場を意図的に設定する必要がある。 ・文や文章を書く場面を意図的・計画的に設定する必要がある。 ・基礎・基本の学習を充実させる必要がある。 ・授業の中で算数ブロックなどの半具体物を用いた操作活動を計画的に取り入れる必要がある。 ・I C T機器を活用し、絵や図などを使って視覚的に理解できる提示を、計画的に取り入れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童に即した課題の設定 ②デジタルドリルの活用 ③自分の考えや意見を発表する場の設定 ⑤ペア学習または、グループ学習の設定 ⑥まとめ、振り返りと次時の見通し
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・大事なことを聞き落とさないようにしながら、最後まで集中して話を聞くことができるように指導する必要がある。 ・語と語や文と文との続き方に注意して、つながりのある文章を書いたり、気持ちを書き表したりすることができるように指導する必要がある。 ・繰り上がりや繰り下がりのある加法・減法の計算法について理解できるよう指導する必要がある。 ・文章問題を理解して立式することに課題があり、なぜその立式ができるのかを説明する経験が少ないので表現方法について指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①相手の話に質問したり、意見を言ったりする活動の意図的な設定 ②他教科においても年間を通して文章による表現力の向上をはかる指導 ③デジタルドリルの活用 ④ペア学習、またはグループ学習の設定
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した漢字や言語などの基礎的な知識を活用する力を向上させる必要がある。 ・叙述に沿って、作者の考えや、登場人 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリルを活用し、既習事項の定着を図る必要がある。 ・学習規律を守って学習に取り組む姿勢を育てる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①デジタルドリルの活用 ②学習規律の徹底 ③他教科においても年間を通して文章による表現力の向上をはかる指導

	<p>物の気持ちや様子を読み取る力の向上が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図を構成する要素に着目して作図する技能を高め、表現する力の向上が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な図書に親しみ抱く書する習慣を身につけ、語彙を増やす必要がある。 ・生活体験につながる数学的活動を増やす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ④ペア学習、グループ学習の設定 ⑥読書活動の充実 ⑥三角定規、コンパスなどの学習用具の活用
4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習漢字や筆算等の基礎的・基本的な知識・技能について、定着率を向上させる必要がある。 ・自身の考えを、相手に伝わるような形で文章表現する力の向上が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリル等を活用し、既習事項の定着を図る必要がある。 ・身に付けた見方・考え方を他教科に移して考えることができるようする必要がある。 ・自身の言葉を文章にする学習場面を多く設定する必要がある。 ・自身の気持ちを的確に表現する語彙を豊かにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①デジタルドリルの活用 ②書く力を育てるワークの活用 ③教科を横断的にとらえた年間学習計画 ④読書環境の整備 ⑤授業終わりの学習感想の活用
5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取ったことを言葉や文章で表現する力の向上が必要である。 ・算数科では、集中力の持続や既習の学習内容の定着に課題があるため、新しい学習内容の理解や積み重ねが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く機会を増やし、考えをまとめて書く指導を丁寧に繰り返し行っていく必要がある。 ・集中力の持続と根気よく取り組む姿勢、最後まで正確に問題を読み取る指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①読み取ったことを文章で表現できる表現力の育成 ②表現の幅を広げる機会の設定 ③習熟度別による効果的な個別指導 ④デジタルドリルの活用
6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える力の向上が必要である。 ・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考える力の向上が必要である。 ・図形や立体の特徴を捉え、理解する力が必要である。 ・既習事項を基に発展的・応用的に考える力の向上が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文では、登場人物の相互関係に基づいた行動や会話、情景などの表現の仕方にも注意して、想像を豊かに読むことが必要である。 ・伝えたいことや知らせたいことを明確にし、論の進め方に注意して文章表現をする必要がある。 ・図形や立体の特徴を整理して、正確に作図や面積・体積を求めることができる力が必要である。 ・デジタルドリルを活用し、既習事項の定着を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童に即した課題の設定 ②デジタルドリルの活用 ③自分の考えや意見を文章化する活動 ④三角定規、分度器、コンパスなどの学習用具の活用 ⑤ペア学習または、グループ学習の設定 ⑥読書等の環境整備
特 別 支 援		<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感の低さから、活動に意欲的に取り組めないことについて指導する必要がある。 ・読み書きの苦手さから、様々な教科で板書したり、文を書いたりすることに抵抗感が強いところを指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①スモールステップによる学習指導 ②児童一人一人に合わせた課題を設定

■ 効果的なデジタルドリルの活用について【チェックリスト】

【区教委提出用・様式2】

- ☒ 学校は年度当初にデジタルドリルの活用について保護者及び児童へ説明をしている。
- ☒ 学校は活用の際して、IDやパスワードについて保護者及び児童へ説明をしている。
- ☒ 児童及び教員がデジタルドリルの内容や機能について概ね理解している。
- ☒ 学校は児童が授業や家庭学習においてデジタルドリルが活用できるよう促している。
- ☒ 学校は家庭におけるデジタルドリルの活用について具体的に指導している。
- ☒ 学校は全ての学年で定期的に様々な場面でデジタルドリルの課題等を児童に与えている。
- ☒ 担任等がデジタルドリルを活用し、児童一人ひとりの傾向を把握し、適した課題や指導を行っている。

■ 自校における効果的な学力定着度調査を活用した事後指導について

■ 自校における効果的なデジタルドリルの活用について（事前・事後指導を含む）

■ HP掲載／内容更新チェックリスト

区教委への様式提出締切日	更新日	更新確認者職名・氏名
例	5月6日（金）	主幹教諭・新宿太郎
第1回 5月8日（月）締切	6月1日（木）	副校長
第2回 11月13日（月）締切		
第3回 3月11日（月）締切		